

生き物はつながりの中に 中村 桂子

二〇二一年六月一日(火) 二校時 学級

第一次指導(話を整理し、話の山を探す指導)

- おはようございます。
- おはようございます。
- 家で読んでみました。読んでみた人、手を挙げて。(全員挙手)
- あっ、宿題。みんな宿題をやってきたんだ。じゃあ、段落ごとに番号を打ってきたんだ。番号を打てなかった人。(挙手なし)
- みんな打てた。えらい。
- この話、結構面白い話でしょう。ちよつと難しいところもあるけど、おつ、という話でしょう。どうして、おつ、と思うかを三時間かけてやりたいと思います。

一 よむ 七名(代表の音読)

- 読んでもらいます。一番は誰。(挙手。順番を確認する。)
- 読む人は、ゆつくり、はっきり、大きな声で読んで下さい。
- 聞く人は、両手で本を持ち、腰を立て静かに集中して聞いて下さい。(七名、しっかりと読む)
- 七人ともしっかりと読めました。よく練習してきたんですね。その練習がいいのです。聞く人も、最後までしっかりと聞いてくれました。

二 とく(読後感の整理の話し合い)

〈題目〉(題を手がかりに話を始める)

- 黒板に書きますから、黙って見ていて下さい。(題名板書 ゆつくり、はっきり)
- 「生き物はつながりの中に」という話ですが、君たちは、どんな生き物を知っていますか。具体的な生き物を言って下さい。口から栄養を取り入れて暮しているもの。
- ああ、なるほどね。今、生き物の特徴みたいなことを言ってくれましたが、皆さんは、生き物といったら何を思い浮かべますか。具体的なものを言って下さい。
- 人間。
- 人間ね。他に。鳥など。
- 鳥ね。他には。昆虫。
- あっ、昆虫もそうね。犬。
- 犬もそうですね。他には。魚。
- 魚もそうだね。で、今、出ているのは、皆、あれだね。同じ仲間だね。今、言ったのは、皆、動くもんだね。そういうのを何ていったっけ。動物。
- 動物だね。生き物は、動物だけかい。さつき、あなた、鳥が出たけど、具体的な鳥、どんな鳥を思い浮かべる。鷹。

○ 鷹、いいね。今、動物が出たけど、動物以外に具体的な物。植物。

○ 植物。植物で具体的な物。花。

○ 花っていったらどんな花。ヒマワリ。

○ ヒマワリ、ヒマワリね。あなたに似合うね。他に。朝顔。

○ 朝顔ね。いいねえ、夏にむいている、いいね。

○ それもそうだね。生き物だね。他にはない。植物か動物かどっちか区別のつかない物があるんだよ。あなたたちの体の中に居るんだよ。なんだか知っている。(首をかしげる)

○ 今、テレビに盛んに出ているでしょう。皆の中に居るんだよ。果物。

○ 果物、そうね。それは、植物の仲間だね。

○ 食べた物でなくて、あなたたちの体の中に居るんだよ。テレビを見ると、福井かどこか、あつちの方の話であつたでしょう。(ぶつぶつ言っているが)

○ 焼肉屋の話だよ。菌。

○ 菌。私たちのここ(腹)にいるんだよ。何菌っていうの。ちゃんと名前があるんだよ。あつ、大腸菌。

○ 大腸菌だよ。大腸菌もいっぱいいて、悪さをする大腸菌もいるのよ。そういう菌も

生き物。私たちの体の中にいるのよ。このことについては図書室に行つて調べてみて下さい。面白いよ。

○ さあ、そういう生き物の、何についての話なの。一言でいうと生き物の何の話。

つながりの話。

○ あつ、つながりの話。それは、結論だ。生き物の何だ。

生き物の特徴。

○ ああ、そうだね。生き物の特徴についての話。

(生き物の特徴 と板書)

○ はい、生き物の特徴は、どういう特徴がある。それをまとめてある。それをまとめたことが書いてあるところがあるの。どういう特徴があると書いてあつたの。

(教科書をみている)

つながり。

○ つながりの中にあるよ、つて書いてあつたでしょう。

(つながりの中に と板書)

○ 生き物はつながりの中で生きている。こう書いてあつたでしょう。そうすると、この題「生き物はつながりの中に」に、何とつけると文になる。

ある。

○ ある。そうすると、この話は、簡単に言う「生き物はつながりの中にある」という話。

(ある。 と赤で板書)

○ そうすると、筆者の中村さんは「生き物はつながりの中にある」ということが分か

つて、生き物に対してどういうふうに通つたの。

(考えている様子)

○ この筆者は、生き物のことについてどう思ったか。読んでみて、一番印象に残った言葉は。

生き物はつながっていることが素敵

だと…。

○ このことが、素敵じゃないの、と考えたんじゃないの。(すてき と板書)

○ すてき、と考えたんでしょ。素敵だと考えた筆者についてあなたたちはどう思うか、これが、この勉強。

〈ひびき〉(各時の指導につながること)

○ そこで、その「つながり」について皆に分かってもらう工夫を、筆者はしています。どんな工夫ですか。

ロボットと比べています。

○ そう、比べていますね。ロボットは何の代表。

機械。

○ ロボット。(ロボ と板書) ロボットは、何でない物の代表。

生き物じゃない。

○ 生き物じゃない代表。では、生き物の代表は何が書いてある。

犬。

○ 犬。犬、名前あつたね。

チロ。

○ チロ。(板書) もう一つ代表が、時々出てくるの。

あなた。

○ あなた。(板書) あなたというのは、君たちのこと。いいね。それを代表にして話を進めている。そういう工夫をしているんだよ。

○ こっち(ロボット)に名前が無いのでロボとしておこう。本物はチロ。この二つを考える。これもご主人にとっては何。ロボもチロもご主人にとって何になる。

ペット。

○ ペットになる。ペットになるから、ペットはご主人にとっては何になる。どういうふうに感じるものなの。

かわいい。

○ かわいいもんです。両方ともとてもかわいい。この二つを考えるのよ。さあ、世話をするとどっちが楽か。ペットとして飼うならどっちが楽かということです。

ロボ。

○ こっちの方が(ロボを指し)楽だな。こっち(ロボ)は、世話をするとしたら何をすればいい。

電池。

○ 電池だけ交換すればいいんだな。こっち(チロ)を世話をするのは大変だな。まず何をやる。

餌をやる。

○ 餌をやる。餌を食べると必ず起きることは何だ。

尿。

○ 小便をしたり。糞。

○ うんち、糞をしたりする。その世話をするが大変だな。もし、餌をやらなかつたら、どうなってしまう。

死んじゃう。

○ ペットでなくなってしまう。そういうところを考えてみようということ。それと、二つは何が違うかということが書いてある。

〈手引き〉(書き出す言葉の指示)

○ 2から5まで、この「つながり」ということで考えてみたいと思います。

○ ノートをあけて下さい。

(1から7まで数字と横線を板書)

○ 題を書いたら、線は書かないで数字だけ行の一番上に書いて下さい。

○ そうしたら、1、6、7は、後で黒板を写して下さい。2、3、4、5だけ、探して書きまます。第2段落を開けて下さい。つながりで、ロボに無くて(× 板書) チロにあるものを探して下さい。

三 よむ (手引きに従い黙読)

(2、3段落は全員で探す)

四 かく (選んだ語句を視写 師は板書)

○ はい、見つけた人。

体外から必要なものを取り入れ、体内から不要なものを出す。

○ 不要なものを出して、必要なものを取り入れる。今言ったことを上手い言葉でまとめてある。終わりの方にある。

外と内とで物質のやり取りをしてい

る。

○ そう、物質のやり取りをしている。そこで短く、物質のやり取りと書いて下さい。

(物質のやり取り と板書)

○ 書けた。それでは、3。3のところ、ロボには無くて、チロにはある。後の方にまとめて書いてある。

外から取り入れたものが自分の一部になる。

○ あっ。そうね。他には。

外とつながっている。

○ 外とつながっているね。外とつながっているから「自分の一部」になる。だから、「自分の一部」と書いて下さい。

(自分の一部 と板書)

○ そのくらい短い言葉。探し方分かった。そしたら、4番と5番を探して書いて下さい。終わったら、1、6、7を写して下さい。時間は、三分ぐらいで探して。

(机間指導する)

○ 自分で探したものでいいのです。4は、変化・成長と書いた人が多いですが、私は一つの個体としました。(板書)

○ 5番は、生命の歴史としました。(板書)

自分の書いたものの下に黒板のものを書いてもいいです。

○ それでは、(全員の作業が終わるのを待ち)の隅に置いて下さい。整頓できたら、腰を伸ばして下さい。

五 よむ 一名(板書 代表 一よむの続きで)

○ それでは、次の人、黒板を読んで下さい。ゆっくり、はっきり、大きな声でお願いします。

六 とく(板書事項の関連と山の発見の話し合い)

〈事実〉(板書事項を関連付ける)・区分

○ この中に、同じ意味の言葉が、二つ書いてあるけど、どれ。

生命の歴史とつながりということ。

○ おお、歴史とつながり。これもそうだね。

物質のやり取りとつながり。

○ 物質のやり取りとつながり。ああ、そうですね。他に、単語で、この単語とこの単語は同じことだよ、という言葉。

○ これが見つければ偉いなあ。

一つと個体。

○ あっ、なるほどね。一つと個体は、同じと考えてもいいね。個体が出たから、これと(赤丸で囲みながら)同じなのは、どれ。一つの他に、同じのがもう一つあるのだけ。

自分。

○ 自分と同じでしょう。(自分を赤で囲む)これ言い換えると、個体の一部(自分の一部を指し)。私の筋肉は、私という個体の一部。だから、これ(一つの個体)自分のこと。(自分と個体を赤矢印で結ぶ)そう考える。

○ これ(個体)、生きるために必要なもの何。生命。

○ あっ、これ必要だな。命があるようにす

るために必要なものをこの中から探せとい
つたら何でしょうか。

物質のやり取り。

○ これが無かったら、どうなるの。

死ぬ。

○ 死んじやうの。これ必要ね。(↑板書)

歴史。

○ 歴史。これないと続かないね。これは後
で考えるからね。生きていくために、やる
ことがあるでしょう。

……。

○ それでは、こつちを先に考えよう。一つ
の個体は、さつき、変化・成長とあつたで
しょう。どんな変化・成長があるの。

……。

○ こうじゃないの。(生 と板書)

生まれる。

○ 生まれて、そうして。次どうなるの。

育つ。

○ 育つ。成長する。(成 と板書)そしたら。

老いる。

○ 老いる。(老 と板書)そして。

死ぬ。

○ 死ぬんだな、(死 と板書)個体としては。
こういうふうにするために、物質のやり取
りが必要。その他に必要なものは何ですか。
ここからここに(生・成を指し)いくため
に必要なもの何。

……。

○ これが(自分の一部)必要じゃないの。
自分を造っていかなくてはならないんだよ。
体を造っていかねければならないんですよ。

う。(↑板書)

○ さあ、この個体。ここからここまで(生
から死までを指し)君たちだったらどのく
らいかかる。

八十年。

○ 八十年位だなあ。(80年と板書)そうい
うふうに変化する。じゃあ、この二つ(2
と3)は何だ。これは、いつのことを言っ
ている。この個体のいつのことを言ってい
る。

……。

○ (括弧 板書)いつのこと。

今。

○ 今のこと。今は、一回きりの今でなくて、
この時の今もあり、この時の今もある。ず
っと、今が続いている。けども、これは
(個体)死んじやうんだな。でも、これど
うして続いているの。続く元は何だ。

子孫。

○ あっ、そう。何があつて(親 と板書)、
親があつて。

子が生まれる。

○ 子が生まれる。(↓と子を板書)子孫がで
きる。これは、どのくらいの歴史があるの
か。

地球の歴史。

○ あっ、地球上の歴史はどのくらいの長さ
だ。ここは、(個体)八十年。ここは、長い
長いと書いてあつたね。どのくらいなのか、
本で読んだことない。

何億年。

○ そう、何億年。地球が生まれて何億年だ。

(ぼそぼそ聞こえるが)

○ (億年と板書)何億年だろう。これね。
ある本で読んだらね。こう書いてあつた。
(38と板書)三十八億年とありました。

○ さあ、こういうつながりがあつたから生
まれてきたという話。では、生き物の特徴
の話は、1番から何番まで。

(5という声あり。)

(6番までという声あり。)

○ ここまで(6)じゃないの。(赤で括弧を
つける)ここ(7)は、生き物の特徴が分
かった筆者の意見・感想。

○ 生き物の特徴はこうですよと、具体的に
書いてあるのは2からです。そのまとは、
どこに書いてあるの。

6。

○ まとめは、6に書いてある。ここ(2)
からここ(5)までは、具体的なつながり
の話。つながりを分けると、ここ(5)は、
時間がすぐくかかる。ここ(4)は一生の
話。ここここは、今の話。こういう話。

○ うちへ帰って、読んでみて下さい。この
文章を読んで、あなたたちはどう考えるか、
それがこの勉強。

七よむ(全員で板書を指音読)

○ それでは、皆で声をそろえて読んでみま
しょう。大きな声で、はっきりと読んで下
さい。(ちよつと間延びしたので)

○ もう少し速く、きりつと読んで下さい。
(その後、消しながら一回、

暗唱で一回)

〈山〉(詳しく読んでいくところの発見)

(やるのを忘れて)

- ここを後二時間勉強します。どこを詳しくやりたいですか。
- 5番。
- もう一つ。(意見がないので番号で挙手)
- 4番をあげた人が多いので4番をします。
- 家で読んでみて下さい。新しい発見があると思いますよ。

(礼)

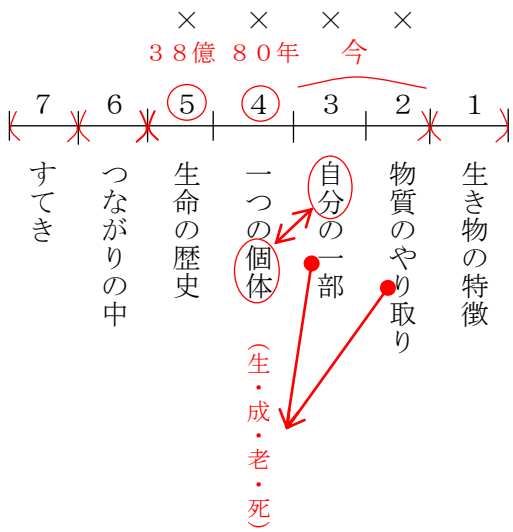
〈板書事項〉

生き物は

つながりの中にある。

ロボー

チロ(あなた)



第二次指導第一時(詳しく読む指導)

六月十五日(水) 二校時

- 挨拶 気持ちいいね。

- 一 よむ(前時の続き 七名 音読)

- さあ、読む人。今日はね、リレーのように次の人、前の人が終わるようになったら、立って待って下さい。
- 聞く人、両手で本を持って、腰を立てて集中して聞いて下さい。

- では、本を置いて下さい。昨日の七人の人ね、よく頑張って読んでくれました。今日の人は、一段とよかった。何がよかったかというと、声に張りが出ていた。

- 舞さんは、ちょっと読み間違えたけど、あなたは、文章が分かっているから自分の言葉に直して読んでしまった。よく内容が分かっている証拠だ。だけど、読むときには注意して読む。分かった、よかった。

- 二 とく(復習と本時の足場づくりの話し合い)

〈おさらし〉

- では、昨日の復習をやりたいと思います。昨日ね。(1から7までと横線一線を板書) こういうのを書いたね。
- 長い長いつながりのことが書いてあったのは何番ですか。

- 5番。
- はい、5番ですね。書いた言葉は何だったっけ。

生命の歴史。

- おお、よく覚えている。えらい、えらい。

(生―と板書)

- 長い長い生命の歴史。どのくらい長いんだっただけ。

三十八億年。

- 三十八億年、と書いたね。これ、図書室で調べてみて下さい、あると思いますから。
- 次、一生の話が書いてあったのは、何番だった。

4。

- 4には、何て書いたか。

一つの個体。

- 一つの個体と書いたな。一つの個体の一生の話だ。(二―と板書)

- 昨日、この一生というのを、一つの個体として一生つながっているということの、一生を書かなかったね。(一生と板書)
- じゃあ、この二つ(2、3)いつ、つながっている話なの。

今。

- 今つながっている話だ。(今と板書)
- さあ、そういうふうに、昨日、勉強した。よく覚えている。大体分かっている。

- じゃあ、2は、何。今、どんなつながりがある。

物質のやりとり。

- 物質のやり取りというつながり。

- 3は。

自分の一部。

- 自分の一部にする。そういうつながり方の話。(自―と板書)

○ そうすると、残っているところには、何を
書いた。思い出せるな。ここ何て書いた。

生き物の特徴。

○ ああ、生き物の特徴。(↑特徴 と板書)

○ 生き物の特徴は、ここ(1) から始まっ
て、どこまで。

6.

○ 6まで。6は、生き物の特徴の何。

つながりの中に。

○ 生き物の特徴は、つながりの中にあるよ、
と、まとめが書いてあったな。(↑板書)

○ そうすると、この話は、ここ(6) がま
とめ、(括弧を赤で) ここ(1) は、始め、
(括弧を赤で) ここ(2と5) は、具体的
な中身 (括弧を赤で) 生き物の特徴の話は
どこまで。

○ では、ここ(7) は、何。

すてき。

○ すてき、素敵と思ったのは誰。

作者。

○ こういう場合はね、文学作品ではないの
で、筆者といった方がいい。字、分かるね。
筆者の感じ方、あるいは意見、ね。こうい
う構成になっている。

〈承接〉(本時の足場を築く話し合い)

○ ところで、今のつながりは、どことつな
がっている話だった。
……。

○ 昨日、ちよつとやった。この二つは何と
つながっている。

物質のやり取りはどことつながっている。

自分の一部にするのはどことつながって、
自分の一部にするのか。

漢字で書く一字だよ。

外。

○ おお、そうだよ。外だね。外とのつなが
りを、今日は、ちよつと考えるよ。

(外 と板書し、四角で囲む)

○ はい、外とのつながりの話。じゃあ、図
を描くからね。外とのつながりを勉強する
のね。(赤い楕円 を描いて) これ、何に
見える。昨日、出た話の中では何だと思っ
う。カタカナ二字、お遊びだから、何だと思
う。この辺りに尻尾をつけると。

イヌ。
イヌ。名前があつたでしょう。

○ これチロと考えて。チロの姿に見えてき
たでしょう、何となく。

○ じゃあ、外とのつながり。物質のやり取
りだから取る方はこうだな。(↓) この物質
のやり取り、例は何が出ていた。

呼吸。

○ うん、呼吸。じゃあ取るのは何。

酸素。

○ 酸素は(O₂ と板書) こう書くのを知って
いる。じゃあ、こっち(↓ の先)は何。

シーオーツー。

○ シーオーツーって何。

二酸化炭素。

○ おお、よく知っている。(記号を板書)

○ さあ、こういうやり取りがあるんだな。
そこでちよつと考えて。生き物が、これを

使うばかりだったら、だんだん何が増えて
いく。

二酸化炭素。

○ だんだんこれ(二酸化炭素) がふえて、
これ(酸素) は、
減っていく。

減っていく。

○ だけど、減ってるか。

(何かいいたそう)

○ これ、こうなって(↑ を二本板書) ぐ
るぐると回るようになってる。ここに何
が入るか(矢印の間)、ちよつと考えて。

木。

○ あつ、木。木、こういうときには、木じ
やなくて。

植物。

○ 植物っていった方がいいな。植物ってい
ったらね、一番酸素を出しているのはなん
だか知っている。木ももちろんそうだけど
ね、意外とね、海の中の植物だそうです。
藻だとかね、植物プランクトンがいっぱい
あるでしょう。それが、大分出してくれ
るんだそうです。私、そういう話を聞いたこ
とがあります。正しいかどうか分かりませ
んが、図書室で調べると面白い。

植物ね。(板書 植物)

○ これは、ぐるぐるとつながっているんだ
な。まだ、入れる話があつたな。何。

餌。

○ 餌。餌でもいいが、君たちなら。

食べ物。

○ 食べ物。食べることは。

食事。

- 食料でも、食事でもいいね。
- 食べ物。(食物 と板書) 食べ物を入れると必ず出すな。
- 尿。尿を出す。(尿 と板書) 尿と。
- 糞。糞という字はね、面白いよ。漢字見ただけで(糞 と板書) 糞と分かる。字書で調べてね。
- これ、食事といってもいいけど、別な言葉でいったら何だろう。ええと、家庭科で使う言葉で何ていったかな。
- 栄養。栄養です。野菜とかだったら何という。例えば、これ(チロ)が、きゅうり、きゅうりだったら何を入れるの。知らない。土の中から、根っこから入れるものを何という。
- 水。水も入れるね。
- あっ、肥料。
- 肥料という。そういうものを入れる。そうすると、この(図を指し)上の方は、チロにとつてどういう物、生きていくために。
- 必要な物。
- 必要な物。必要な物(必要 と板書)ね。下の方は何。
- 不要。
- 不要な物。(不要 と板書)というふうに、できているのね。不思議なもんだ。生き物の体には、こういうことができる仕組みが、備わっているんだ。これ、誰かの力を借り

- 力を借りなくてこういうことができるんだ。これが、生き物の不思議なところ。
- さあ、そこで次だよ。これは、今のことを考えたんだけど、このことを考えてみましょう。(赤い楕円と体 を板書) 個体のことを考えてみましょう。
- これ、体だね。体は何から作られている。
- タンパク質。
- うん。体は、これから(食物)作るんだな。そう、体はこれから作る。例えば、体の一部、筋肉を作るのには何が必要。
- タンパク質。
- タンパク質でしょう。タンパク質を採って、要らなくなった物はこちへ出すんですよ。ところで、食事で栄養を採れば採るほど、どうなる。
- 成長する。
- そう、成長してくる。採れば採るほど、体が大きくなってくる。体を作る仕組みがここにできている。そうやって、体は出来上がっていく。体というのは、これが(食物)変われば、体は。
- 変わる。
- 変わってくるんだな。そうすると、日々変わってくる。食事をして体の中に入って筋肉なるまでには、食べたらすぐになるの。そうじゃないんだな。食べて、消化して、吸収されて、血液に運ばれて、ここ(腕の筋肉を指し)に来て、そして、ここで作られるんですよ。それ、理科で勉強したでしょう。そういう仕組みになっているんですよ。

- よう。そう考えると、これは、いつも変化しているんだな。だけど、ここで勉強したように、一生、何。私は、私として、変わってないという不思議な話だな。そのところを書いて勉強しますから、4の段落を開けて下さい。
- 〈手引き〉(視写する箇所の指示)
- 4の段落のところに「あなた」という言葉がある文を探して御覧なさい。
- (指で示す子あり)
- 二箇所にあります。別な文にもない。探して御覧なさい。
- 探せた。それでは、読むよ。「あなたも、赤ちゃんのとき」から次のページの「あなたはあなたというように、一生を通じてつながっていることも確かです。」というところまで。分かった。
- はい。
- 今日は、マスいっぱい字を書いて下さい。そして、鉛筆の色が出るように書いて下さい。それでは、書き始めて下さい。さあ、どうぞ。
- 三よむ(黙読)
- 四かく(視写) (板書事項を参照)
- 見せてもらったからね、小学校のときにか書けないような大きな字で力一杯書いていました。それが、よくできていました。いい字が書いていました。落ち着いた字が書けている人もいました。
- 五よむ 一名(板書 代表 次の人)

- さあ、次の人、誰。これ読んで下さい。
- 六 とく(板書の文を解く話し合い)

〈語義〉(意味や働きの難しい語句)・〈区分〉

- さあ、難しい言葉ありますか。
- 無いかな。じゃあ、これ(でも)は、どういうときに使いますか。
- 反対のときに。
- 反対、反対は、どことどこが反対。
- 前の文と後ろの文。
- 前の文と後ろの文が反対のときにね。こつちを書いてあることとこつちを書いてあることが反対のことが書いてあるときにね。
- それではね。ここに「あなたも」と書いてあるね。「も」と書いてあるから、この前に何か書いてあるんだね。そういういうときの「も」だな。前のこととつながっているときに使う「も」だよ。この「も」が他にもある。どこにある。
- そのの、「と」の「も」。
- この(ことも確かです)、ことも、の「も」もそうだね。他には。
- 「考えることも」の「も」。
- それも、そうですね、身長も体重も。
- これは、同じものを並べる時に使うね。これもそうですね。
- じゃあ、次。赤ちゃんのときと、今との「と」は、この「と」はどういうときに使いますか。
- これ、ちょっと説明が難しい。これとこ

れと、というときの「と」です。…

- これは、こつちも、こつちも目立たせるときに使う。そういうときに使う。いい。この(あなたと)「と」も同じ。いいね。
- 後は、一生って何。
- 生まれたから死ぬまで。
- 生まれてから死ぬまでのことね。
- それでは、これを、二つに分けなさいといったら分けられるね。
- これ(でも)があるものね。(括弧 板書)
- はい、こつち(前)は、どういう話。変わった。
- 変わった話。じゃあ、こつち(後)は。つながっている。
- 「変わっていない」ということだな。変わっていないというのは、どこで分かる。つながっている。
- つながっているということね。つながっているといことは、変わっていないということでしょう。
- という、おかしな話じゃない。反対のことが一つの個体にあるというのは変じゃない。ね、そうじゃない。そこをちよつと考える。
- そこで、変わったこと二つある。何と何。身長と体重。
- これが変わった(赤で括弧)一つ。もう一つは。考えること。
- これが(赤で括弧)変わった。こつち(身長・体重)は、何が変わったの。

体が変わった。

- 体が変わった。(体 板書) こつち(考えること)は。
- 頭が変わった。
- 頭が変わったといつてもいいけど、別な言葉。
- 心が変わった。
- 心が変わった。頭が変わったでもいいんだよ。(心 板書) 心が変わった。目に見えるのはどつちの方。体。
- こつちは、目に見えるね。こつち(心)は目に見えないね。見えないけれども変わっているね。心が変わったというのは、頭の何が変わったんだらうね。脳みそ。
- ああ、脳みそが変わったんだな。
- 〈心〉(文章の核心を具体的に掴む話し合い)
- さあ、そこで、この文章ね。文の中に鈎括弧を付けると、どこに付けるでしょうか。ずいぶん変わったでしょう。
- あっ、どこまで。終わりの括弧をどこに付けますか。
- 終わりは、ずいぶん変わった。
- ここまで() 鈎括弧ね。ここは() いないね。
- こつち(後の文)にも鈎括弧をして。初めは、ここ(チロの前に「を板書)つながっているまで。
- ここまでいいんだね。()
- そうすると、筆者は、この説明をしてい

るのだけれども、君たちに、特別この仕組みの話は、全然してないね。してないけど、これは、君たちに分かると思ってているんじゃないか。

分かると思っていると、どこに書いてある。これ、常識で分かる中村さんは思っている。

一生を通じて。

○ ああ、なるほどね。一生を通じてつながっているということね。筆者の中村さんは、これだけの説明で分かるよと思っている言葉がある。

この話、聞いただけで納得できるでしょう。自分でもこの話分かるでしょう。あなたが、赤ちゃんで生まれてきて、いろいろ変わってきているけれども、あなたはあなたでつながっている。

チロだったら一生が短いから見る事ができるね。もっと短いのお蚕飼ったことあるでしょう。(ないの声) あっ、理科でやったことない。ちようちよ育てたことはあるでしょう。卵からずっとやって、羽化するところまでやったでしょう。(逃がしてやったの声) 死ぬところまでは見てない。でも、一生の話、よく分かるね。説明が要らないから、こう書いてある。(確かに楕円)

○ こっち(前)にも、同じことが書いてある。どれ、説明要らないでしょうって書いてある。
でしよう。
○ おお、そう。すっぱらしい。そうすると、この言葉は、入れ替えてもいいな。そうす

ると、「あなたも赤ちゃん：変わったことも確かです。」と書いてもいいでしょう。こち(後)の文を入れ替えると「でも、チロはチロ：つながっているでしょう。」、いいでしょう。こういう説明がなくても分かると考えて、中村さんは、この文章を書いた。本当は、この仕組みを勉強するものすごく面白い。ただ難しい。これを勉強すると不思議でしょう。変わっているけど変わっていない。どうしてこうなっているか、この仕組みは、図書館で調べて下さいね。中村さん、わざわざ書かなかった、難しいので。

○ 余韻 (個体≡生命体の不思議さ)

七よむ (全員で 指音読)

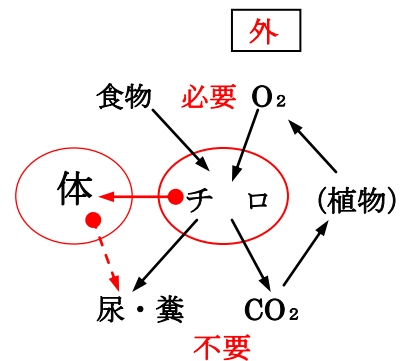
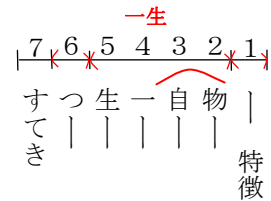
○ 読んで終わりにします。腰を伸ばして下さい。

○ これだけ読めれば、消しても読めますね。漢字と点だけ残しておきましょう。

(二回音読)

○ この話、面白いので図書館で探して下さい。ここで勉強したようなことで、日本人が、ノーベル賞をもらえるような研究をしました。京都の先生です。新聞に出ていますよ。(礼)

〔板書事項〕



「あなたも、赤ちゃんのとき

と今とでは、(身長も体重も、

考えることもずいぶん

変わった)でしょう。

でも、「チロはチロ、あなたは

あなたというように、

一生を通じてつながっている」

ことも、**確か**です。

第二次指導第二時（詳しく読む指導）

六月一六日（木）一校時

○（お願いします。に応えて）こちらこそお願いします。今日で三日目、読む勉強は今日でお仕舞い。読む人、特別ゆつくりね。授業でやったことを考えながら読んで下さい。聞く人、しっかりと、考えながら聞いて下さい。

一 よむ（前時の続き 七名 音読）

（欠席者あり。読む順番を確認する）

○ 本を両手で持って、腰を立てる。腰を立てること大事なことです。では、お願いします。

○ 本を置いて下さい。今日の七名の方も立派だ。聞く人もね。今日の読み方だとよく分かるでしょう。

二 とく（復習と本時の足場づくりの話し合い）

〈おさらい〉

○ 昨日の復習をやりたいと思います。昨日、黒板に書きましたよね。「でも」ということで、前と後のことを書いたでしょう。

○ での前は、「でしよう。」って書いたでしょう。（でしよう 板書）での後の方は「ことも」（板書しながら）何だった。

確かです。

○ 確かです。そう、よく覚えている。（板書）えらいなあ。何が「でしよう」か、何が「ことも確かです」かを、括弧を付けてもらいました。目立つための括弧ですが、（鈎括弧を板書）書きました。

○ こっちは、どんなことが「でしよう」といつているんでしょうか。

○ 変わるでしようといっているんでしよう。「変わる」を、別な言葉で。

変化・成長。

○ 変化・成長するといっているでしよう。（変化 と板書しながら）変わるでしよう。

○ そうして、それを生き物だから、その変わり方が、（成長という声）成長する、といっているんでしよう。（・成長… と板書）

○ じゃあ、こっちは、変化… しない。

○ 変化しないでしよう、といっている。だから、「でも」でつながっているのね。

○ ここでは、どう書いてあったかというところ、「一生を…」（と板書しながら）、通じて…。

○ 通じて（板書）、つながっている。

○ つながっている（板書）と、そう書いてあるね。

○ ここに、「でも」があったときにね、でもの前の言葉と、後の言葉とは、それを使った人がね、どっちの方を強く言いたいと思っているの。「でも」の前の方を強く言いたいと思っているか、後の方を強く言いたいと思っているか。それを考えてもらう。

○ では、例を出すよ。「あつ、今度の体育頑張ってみようかな。でも、失敗したらいやだなあ。」っていうのと、「今度の体育失敗したらいやだなあ。でも、頑張ってみよう。」と、同じことを逆にすると、前の

例は、どういう気持ちが強いの。

失敗したらいやだなあ。

○ 失敗したら、後の方が強い。後の例だと、「よしやるぞ」という気持ちが強くなるね。

○ こども（板書を指し）こっちとこっちでは、こっち（確かです）の方が、強いつて分かるんだな。これ見ただけでも、強いつて言葉が分かるの。

○ 「でしよう」と「確か」を比べてどっちが強くなる。

確か。

○ こっちの方が強く見えるでしよう。だから、こっちが大事な内容だということ。いい。中村さんは、そんなことも考えて書いているの。素晴らしいなと、「ゆうべ」気がついたので、私は。それで、普通ここは変わらないと書きたいのに、わざわざ、筆者は、何と書いている。変わらないんじゃない。

つながっている。

○ つながっていると、この言葉をここに使っている。よくよく考えたらね。「一生通じて変わっていません、変わりません」というよりか、「つながっている」ってやった方が科学的に正しいのです。確かに変わっているのです。昨日と今日とで変わっている。だけど、変わらないでは、ちよつと物足りないから、そこを「つながり」という言葉で書くときよく分かる。そこも、よく考えて書いているなあ、私は、気付いたのです。

○ これ、昨日、やっておけばよかったんですが、チロの話でもいいですがね。ロボに

は、これあるか。この（変化・成長）うちの、ないのはどっち。

成長。

○ これ、ないんだな。こっち（変化）はありそうだな。ロボットでも日が経てば、色が変わってきたり、耳がひん曲がったり、脚が折れたりする。では、こっち（後の括弧）は。この中で、ロボにない言葉。チロにはあるけど、ロボにはない言葉。

つながる。

○ つながるといふことはないな。つながることがないのは、どうしてかが、言葉で書いてある。

一生。

○ 一生。これ、よく分かった。えらいよ。これ（一生）がないから、この話は、ロボには全然関係が…。

ない。

○ ない。ないっていうことを言ってるの。そこを、昨日、考えればよかったなと、思いました。これで、安心した。

○ さあ、ロボには、一生がないな。ところで、一生というのは、どういうのをいうの。

生まれて…

○ 生まれて…、

死ぬまで。

○ 死ぬまで。それを一生というんだな。さあ、そうすると、ロボとチロを考えると、家族や兄弟のあるのはどっちだ。

チロ。

○ チロの方。ロボには、それは…。

○ ない。さあ、そうすると、チロのことを考えてみてもいいが、私たち、自分自身のことを考えてみよう。

○ ええと、チロ（チロ）と板書。もう一つ

復習で確認しておきたいことがある。成長するためには、何が必要。どうしないと成長できない。

チロがさ、生まれて赤ちゃんから大きくなるためには何が必要。

餌とか…。

○ そう、食べ物がないと行かない。

（食、物）と板書

○ ロボの方は、食べ物はいらないな。ただ、動くために何が必要。

電池。

○ 電池、エネルギーが必要だな。私たちも動くために、エネルギーが必要だから、食べる。食べて、エネルギーを得る。

○ さあ、それで、変化している。食べ物を食べているから変化・成長している。こっちは、変化・成長しているけれども、結局毎日違っているけれども、つながっている、

（つながり）と板書しながら）という話。

○ さあ、チロも私たちも、これ（今書いた板書事項）は、チロの体の中にも、私たちの体の中にも、こういうことができる力があるのね。どこにあるの…。そう、その個

体にあるの。生き物そのものの中にあるの。自分でできるところが素晴らしい。

（自分で 板書 四角で囲む）

○ 豚の肉を食べたら、自分の肉になるという仕組みがこの体の中にある。豚肉を食べ

たら豚の肉が、ここ（類）に付くんじやないな。そういうふうには、上手くできている。そういう不思議な仕組みの話。

〈承接〉（本時の足場を築く話し合い）

○ それでは、家族のことを考えてみます。ここを私にしよう。（私）と板書 さあ、私がいるためには、誰が必要。

お父さん、お母さん。

○ お父さん・お母さん。漢字二字でいうと何。

両親。

○ 両親ね。（板書）お父さん、お母さんのことね。（↑）二親ともいうね。じゃあ、今、両親がいるのは。漢字三文字でいうと。

祖父母。

○ 祖父母。えらいなあ。なかなか語彙量があるなあ。（祖父母 ↑ を板書）

○ 祖父母がいるためには、この上は。（曾祖父というような声あり）曾祖父。曾祖父というのをもつと簡単な言葉でいうと何。

ひいおじいさん。

○ あつ、ひいおじいさん、ひいじいさん。ひいばあさん。いいね。この先はいいね。

○ じゃあ、両親から生まれた別な個体は、何っていう。

兄弟。

○ 兄弟というな。兄弟も、姉・妹と書いてもいいんだけど、一応、こう兄・弟と書きます。いいね。

○ 祖父母から生まれたのは、何っていうの。おばさん。

- おばさんとか…。
おじさん。
- おじさん。おばさんとかおじさん（板書）
- じゃあ、おじさんやおばさんから生まれた子どもは、何ていうの。
いとこ。
- いとこだな。（板書）そうすると、こういうふうにつながっているんだね。こういうつながりを何のつながりがあるというの。
生命。
- あっ、生命のつながり。もうちよつと違う言葉でいわない。
血。
- あっ、血がつながっているっていうでしょう。そういう言葉あるでしょう。
- さあ、こっち（板書の上の方）の方は、何ていうの。これ、一言でいうと、こっちの方は、何で言うの。
親戚。
- 親戚といってもいいし、もっと上の方まで行くと。…ずうつと上の方まで行くと。
先祖。
- あっ、先祖。先祖ということだな。先祖ともいっていいし、あるいは。
祖先。
- 祖先といってもいいね。（祖先 と板書）そういう関係だよ。じゃ、この人（祖父母）から見るとこれ（両親）、何。
子ども。
- 子ども。じゃあ、この人（祖父母）から見るとこれ（いとこ）は何。
孫。

- 孫。これは（私・兄弟）。
孫。
 - そうね。この人（祖父母）から見るとこちの方は何ていうの。
子孫。
 - ああ、子孫でいいね。だから、私からこち（下）へつながるとすれば、こっちは、子孫がくるね。いいね。そういう関係がよく分かってる。（子孫 と板書）
 - さあ、この（家族図を指して）つながりを、今日、勉強する。このつながりについて考える。
- 〈手引き〉（視写する箇所の指示）
- さあ、そこで、このつながりのことを考えてもらいたいのので、どこを書くかというと…。5の段落だね。この話（家族図）の後、どこからでしょうか。
探せた。「おじさんとおばあさんがいたから生まれたのです。」までが、「この話だから、「こうして」からずうつと読んでいって下さい。次のページ「生き物の特徴です」というところまで。分かる。書くところ分かった。
最後だから、自分の最高の字を書いて下さい。できるだけ大きな字で、色もよく出して、最高の字を書いて下さい。書初め大会へ出すつもり。

- じゃあ、鉛筆をノートに挟んで、本と重ねて、隅に置いたら、姿勢を正して。
女の子は、いいね。印象の強い字を書いている。それね、その人の生命力が字に出るの。だから、鍛えていく。
じゃあ、次の人、誰ですか。これ読んで下さい。ゆっくりね。
 - 五 よむ 一名（板書 代表 次の人）
 - 今の読み方、よかった。
 - 六 とく（板書の文を解く話し合い）
- 〈語義〉（意味や働きの難しい語句）・〈区分〉
- 歴史の史が間違えていたな。見直したが、気がつかなかった。（止に／右に史と板書）ここを書くときね。ちよつと、他のことがよぎったの。七月十六日にね、兵庫県に行つて、ちよつと、講演することになったの。そのときにね、ここで勉強したことを話そうかと、チラッと思つたの。そうしたら、こういうふうになつちやたの。
私に、何が足りなかったの。
集中力が足りなかった。
 - 集中力が足りなかった。集中力って大事なんだね。はずかしいけど、これも、私の記念品。
 - こうしてってどんなこと。
前のこと。
 - この（家族図）ことね。たどっていくのだから、どういうの。
（指を動かす子）

○ そう、下から順にこうして（家族図を使つて）、こういうふうに行くの。たどるというのは、易しく行けるのだろうか。できた道筋に沿って行くんだけれども、別れ道になつたとき、ちよつと難しい。

○ 生命の始まり、って何。その前に、生命って、今まで出て来た言葉では何。

○ 生命って、今まで出て来た言葉では何。

○ 一生。

○ 一生も…。

生き物。

○ 生き物のことね。生き物の始まりということ。で、筆者は、わざわざ、ここで生命と書き直しているのだから、この言葉（生命）の中のどっちの言葉が大事だと思つたのかな。

…。

○ 生き物の「生き」が残っているな。生命としたんだから、この内のこれ（命）が大事故だと、筆者は思った。だから、生き物でなくて生命にしたかった。同じ意味のことのようだけれども、これ（命）を考えてもらいたかつたのね。いいね。

○ 始まり。

最初。

○ 最初ね。「始まりにまで」というのだから、生命の最初は、何個だろう。

…。

○ 今の研究だと、どうも一個じゃないかな。一個とは、書いてはないけれども、この言葉にありそうな気がするよ。この「に」は、

なくても話通じるでしょう。「地球上の生命のはじまりまでさかのぼれます」と書いても、いいでしょう。「に」を付けたから、ここ（始まり）に着くというように思います。

○ さかのぼるとは、どういうこと。

○ 下の方から…。

○ 下の方から上の方へいくこと。上るの反対は何。

下る。

○ この中でいうと、下るはどれ。下る話はどう。

未来。

○ 未来。ああ、未来ね。（探しているが…）これ（歴史）が、そうね。昔の日本からだんだん下ってきているでしょう。こつち（後の文）は、下る。こつち（前の文）は上る。いいね。

○ このように、つて。

前のように。

○ 前のことね。そうすると、「このように」という後には、何が来る。

まとめ。

○ あつ、まとめが来る。そういうふうに考えると、ここで、こう分けられる。（二区分）

○ 後、…。過去は。

昔のこと

○ 昔のこと、いいね。過去の生き物たちというとなんになる。ここであつて、何になる。

祖先。

○ あつ、祖先。過去の生き物たちというの

○ は、祖先。（祖先 と板書）

○ 子孫。子孫。いいね。そうすると、これは、こう読めるね。「このように、祖先や子孫とつながっていることも生き物の特徴です。」と読めますね。いいね。

○ 前を二つに分けて。

○ さかのぼれますとチロは…。

○ そうですね。こう分けられますね。

○ こつちは、さかのぼる方。矢印でいうと

○ こういう（黄色で）矢印。こつちは、どう

○ いう矢印かという。

○ 下の矢印。

○ 下る矢印。（↓ を板書） こういう矢印。そう分けられる。そうしたら、黄色のように

○ さかのぼっていくと、どこへ行く。

○ 生命の始まり。

○ 〈心〉（文章の核心を具体的に掴む話し合い）

○ 生命の始まりにまで行き着く。じゃあ、生命の始まりは、こう書こう。（命 を板書）命が、地球上の生命。命が、どうも一個じゃないかなあと、誰も見たことがないので、今の研究ではそう考えているようです。

○ それでは、歴史を下っていくと（緑で命を囲み、そこから下へ枝分かれを描いていく）こんな、図、見たことない。こういうふうになつて、こういうふうになつて、この辺で、植物と動物が分かれてきて、という話、聞いたことあるでしょう。そういうのを何というか、「感情」のところを書いてあつたでしょう。こういうふうに分かれて、

ここで、猿と人間が分かれて、っていうような話。この前の教材の「感情」のところ
で勉強したでしょう。

進化。

○ そう、進化。そういうふうに歴史を下つてくると、いつかは、ここにつながるの。(チロにつながる)そして、どこかで分かれてきて、どこにつながるかという(祖父母につながる) こういう歴史があったから、誰が生まれた。

チロ…。

○ チロもあなたも、だから、今いるんだよ、という話だ。すごい話ね。

○ そこで、ちよつと考えて、計算してみても、この私がいるためには、上に何人いないといけない。…まず二人だな。さらに上に行く
と何人いないと。

四人。

○ 四人必要だな。更にも上に行く。

八人。

○ 八人必要だ。更にも上に行く。

十六人。

○ 十六人。というふうに数えていって、十代前というと、ええと、普通は二十くらいで子どもが生まれたとすると、十代経つと何年になる。

二百年。

○ 二百年になる。もし、三十で生まれたとすれば、毎回、三十で生まれたとすれば何年になる。

三百年。

○ 三百年になる。今から、二百年前といっ

たらいつになる。大体、千八百年くらいになる。何時代になる。

…。

○ 江戸時代じゃないの。江戸の終わり。もし、三十年ずつ考えていくと、三百年。それも江戸時代だな。その頃まで数えると、何人の人と関係があったと思う。後で、計算してみても、すごい人数になるよ。そのうちの一人でも欠けたら、あなたは、ない。一人でも欠けたら、あなたもない。あなたとちよつと違う人はいるかもしれないけど、あなたは、ない。

○ ここ(祖先)とここ(子孫)の間にいるのは誰。

自分。

○ 自分だ。だから、私が、もし、亡くなつたときは。

この先はない。

○ そう思ったら自分をどう思う。

大切。

○ 大切に思うでしょう。あるいは、他のものに代えられない存在だ、と思うでしょう。かけがえのない存在だと思うが、皆さんはどうですか、と訊いている。そういう話。

〈余韻〉

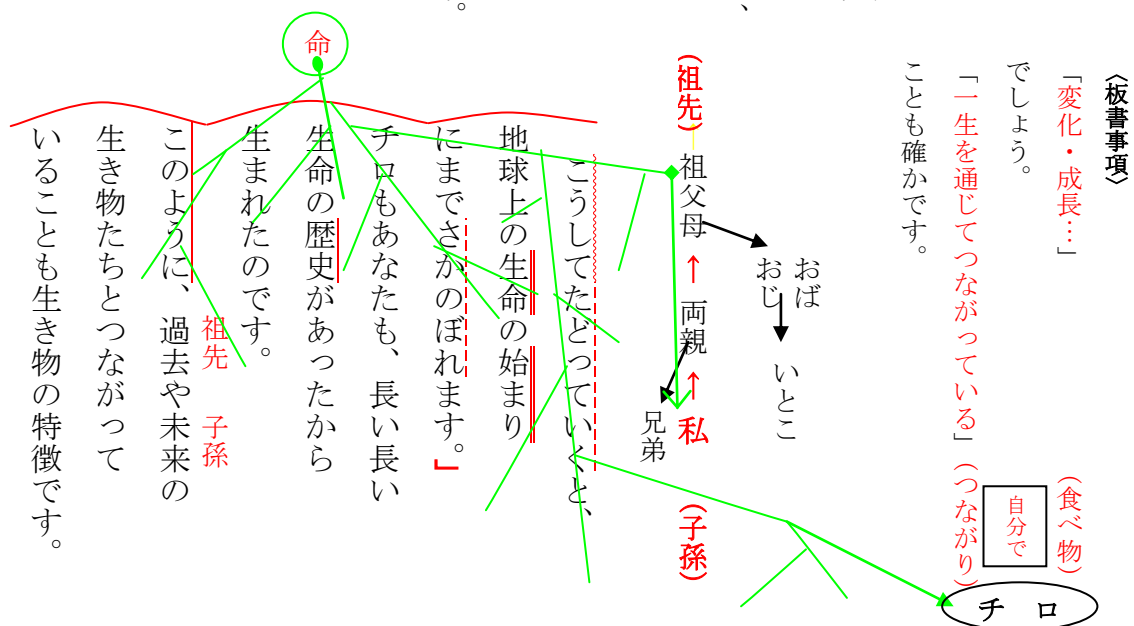
(生命の歴史の重み)

○ では、読んで終わります。腰を立てて。

七よむ(全員で 指音読)(元気に読む)

○ これで、読みの勉強は終わりです。明日は、この話を読んであなたはどう思うかを書いてもらいます。題を考えて来て下さい。

(礼)



(作文の指導に準じて)

第三次指導第一時 (感想文の記述指導)

六月一七日(金) 二校時

○ 挨拶 よろしくお願ひします。

(作文用紙を配布)

○ 作業をしてもらいます。今、配る用紙に、日付と学校名を先ず書いてもらいます。

もう書いている人もいるね。書き終わったら、「生き物はつながりの中に」を黙読して、今日、どんなことを書くのかなあ、と考えてください。

その間に、問題を黒板に書きます。それに答えてもらって、全体のまとめをします。それから、感想文を書いてもらいます。

読みながら、気にいった表現のところにアンダーラインを引いくのもいいですよ。では、始めて下さい。

(黙読を始めるのを見て、板書)

○ さあ、読み終わってしまった人は、鉛筆を教科書に挟んで、隅に置いてください。用紙も教科書の下に置いて下さい。置いたら、こちらを向いて下さい。

一 文話 (作文を書く雰囲気を作る話し合い)

○ (黒板を指し) 昨日、勉強したのはここだね。この括弧の中に、漢字二字の言葉を入れてください。

祖先。

○ あっ、祖先。先祖でもいい。(祖先 板書)
上が祖先だったら下は何になるか。

子孫。

○ 子孫ね。子孫のシは、子どもという字。(子と書きながら) ソンは、どういう意味。

まご。

○ 孫ね。(孫 と板書) 孫の反対の言葉は何。

祖父。

○ 祖父とか。祖母だね。

○ そうすると、ここの勉強は、何のリレーについて勉強していたことになるの。

生命。

○ 生命のリレー。漢字一字でいうと何。

命。

○ 命。ああ、いいねえ。命のリレーをしているという話だった。(命 と板書) 命のリレーの長さは。

長い。

○ 長い、長い、歴史があつて、今の私があるのね。それを、昨日、勉強したでしょう。

○ 私というものは、あなたも、あなたも、皆、私。私というものには、必ず何かがある。この黒板の中の言葉で、漢字一字の言葉は何。

命。

○ 命。そう、命。命があるためには、これがないと、命がないの。

体。

○ 体。私という体だから、個体という。その個体の話だよ。個体には、限りがあると書いてあった。この中の言葉では何がある。

一生。

○ 一生。限りがある。だけれども、この一生の間、ずっと生き続けるためには、今、しなければならぬことが二つある。一つは食事。もう一つは何だ。

呼吸。

○ 呼吸。(呼吸 と板書) 呼吸はね、生き物

全部が呼吸しているという言い方は、ちょっと変なところがあるのだけれども、一応、動物だったら、植物も呼吸をしているけれども、これは、呼吸をすることによって、何をしているの。物質の…。

やり取り。

○ やり取りをしている。呼吸をするということは、空気を吸うこと。空気の中の何を取ることを呼吸ということ。

酸素。

○ 酸素を取ること。そして何を出すの。

二酸化炭素。

○ 二酸化炭素。そうすると、(酸素と二酸化炭素を記号で板書しながら) 体の中を通っているうちに、何が変わる。

C。

○ これが(C) 増える。ロボットだったら、これが(C)、電池になる。だから、エネルギーになる。

これを(C)をとって、酸素に戻するために、どこかを通らなくてはならないと、勉強したでしょう。何を通れば、とれるの。

植物。

○ よく覚えている。植物だ。そうすると、私達は、これを(C)どこから取るの。体の中に、これが(C)なければ、これ(二酸化炭素の記号)できないでしょう。エネルギーが作れない。どこから取るの。

食事。

○ これから(食事) 取る。植物を食べなければ、私達は、これが(C)取れない。こ

うつながっている。しかも、食事をするときに、植物だけかというところ…。

動物。

○ 動物を食べるでしょう。何で動物を食べるかというところ、動物を食べた方がいいタンパク質が取れるからです。だけれども、馬や象などは、植物だけを食べてあんな体を作る。だから、食べる量が、多いのです。今を生きていくためには、私達は、呼吸をしなくてはならない。そして、体を作るために必要なのは何。

食事。

○ 食べなければならぬ。すると、呼吸をするのも、食事をするのも物質のやり取り。それらの物は、みんな私たちの個体からいうと、どこにある物ですか。

……。

○ これ(外と板書)でしょう。外とのつながりがすごく大事、今を生きるために。そういう話がこの所。

○ 食事をする、私たちの体はどうなる。成長する。

○ 成長します。(成長と板書)その他には。変化します。

○ 変化します。(変化と板書)成長や変化をするのが私達の体。だけれども、私達は、変化しながら一生の間どうなっている。

つながっている。

○ つながっている。そういう話。

(題名を板書)

○ 中村さんは、題のどこに目を付けたの。つながり。

○ おつ、これに目をつけた。(四角で囲む)

中村さんは、大事なことを題に書いている。このつながりというのは、一つや二つか。いっぱいつながりがあると書いてあった。いっぱいって、題のどこに書いてある。

中に。

○ おお、あんた達は閃く。いいぞ。「中に」あるということが、分かったら、あんた達、自分のことをどう思う。あるいは、友達のことをどう思う。チロのことをどう思う。花や木のことをどう思う。それを、これから、自分で考えて書いてもらおう。

二 文題発表 (題を考えて来なかった子のために)

○ 今日書くことを考えて来て下さいといいたね。題を考えて来た人。

他も大切。(タもタイセツ)

○ いい題だなあ。(板書)あなた、いい題を考えてくれたので、ここで、題について考えてみましょう。

これ(他)「タ」の以外に何て読む。ほか。

○ ほかも大切。そう読んでもいいね。神田さんは、「タも大切」と発表してくれたね。「ほかも大切」と「タも大切」はどう違う。ちよつと、響きが違うでしょう。どっちの方が大人っぽい。タを使った方。

○ 「タ」を使った方が大人っぽい。「タ」は何読みだ。音。

○ 音読みだ。「ほか」は何読みだ。

訓。

○ 音読みにした方が、大人っぽい。響きも硬く、強くなる。だから、いい題を考えてくれたなあ、と思いました。

○ ほかの人が、どうぞ。(敬遠気味)

○ 座席表を見てから、公太君。(席が海部君と入れ替わっていたので、目を合わせた子が違っていた。) (公太君、きよとんした顔になる) そうだ、去年、公太君とは、給食と一緒に食べたことを思い出した。

題、考えこなかった。いいよ。他の人の題を聞いて考えて。

○ 海部君は、どうですか。(首を傾げる)

一番、心に残ったことを題にするといい。

○ あの二人のために、他の人、どうですか。どんなのを考えてきましたか。

○ ではね、よその学級でやった時の題を読むよ。上野原の島田小学校の五人ほどを…。

・ 同じとことと違うところ

・ ぼくの命 (なかなかいいね。)

・ 命の喜び (おおつ、だね)

・ 私と生き物のつながり

(こんなの、題になりそうだね。)

・ 生命の存在 (存在：ね。)

・ かけがえのない存在

○ 文章の中の言葉を使っているね。これも、一つの題の書き方。

それでは、後、二十分くらいありますから、十五分くらいで書き上げるつもりで書いて下さい。

三 記述

- 題を後で書くという考え方もある。
- マスいっぱい字を書いて下さい。コピーできるように色を濃く出して下さい。

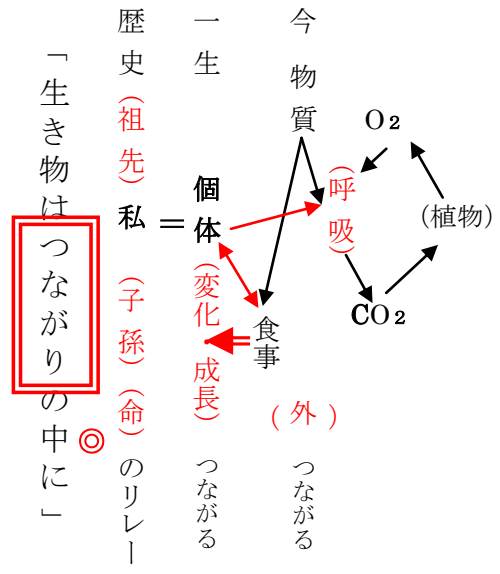
四 自己批評

- そろそろ時間です。終わった人は、読み直す。間違いは、鉛筆で線を引き、直す。抜けたのは、記号を使って入れる。

五 提出 (書いた子を労いながら受け取る)

- できた人から静かに出す。まだの人は、今、書いている文が終わったら、途中でもいいので、出してください。

〈板書事項〉



他にも大切

第三次指導第二時 (感想文の批評指導)

六月二十日(月) 一校時

- それでは、始めましょう。顔を上げてこちらを見て、号令はかけない。腰を立てて、では、始めましょう。おはようございます。おはようございます。

- 金曜日に家へ帰って「生き物はつながりの中に」を読んでみた人。(一人挙手) あっ、えらい。授業が終わったら家に帰って読んでみるというのは、大変重要なことなのです。その日に授業したことを思い出せるからです。そうすると、自分に力が付く。

一 総評 (感想文を読んだのクラス全体の傾向など)

- そこにある記号は、前に説明したので説明しません。感想文を難しく考えている人がいるようだけれども (感想文 と板書)。感想文というのは、そんなに難しく考えなくていい。感想文というのは何を書くのかというと、まず、これ (感) がないとだめ。(感を○で囲む) これ、何。感じる。

- 感じることね。読んだ時に、何かを感じないと、感想文にならない。読むと何か感じる。そうすると、心に何か残るでしょう。(残 と板書) これがないと、感想文が書けない。だから、(読 と板書) 読んだら何かを感じて、それを心に残す。これが、読むということ。皆さんの感想文を読むと、みんなここ(残) はできている。これでいいのです。

心に残るものは、人によって、どうなるの。違う。

- みんな違う。それ、個性なの。自分で感じたことは、大事なことです。それを、上手いことを感じなければいけないと、考える必要は全然ない。その人が感じたことを残すということが、すごく大事なことです。本を読むだけでなく、人と話をするというときにも、感じたものを残さなくてはいい。それが、生きるということ。
- そうしたら、これ (想)、どういう意味。思うこと。
- 思うことだね。思うというのは、別な言葉でいうと何。想像。

- あっ、想像。想像というのは漢字一字で表すと、こういう字にならない。(一画ずつゆっくり書いていき、四画目で) うっ。考える。

- 考えることだよ。考えるということがあればいい。すると、もう感想文になる。何を考えるかが、大事になる。これ (残) を考える。感じて心に残ったことを考える。考えるときに、六年生ぐらいになると、こういう力があるのです。(観察 と板書) 観察、何を観察するのでしょうか……。心に残ったことを観察すれば、いい感想文ができるのです。すると、残ったものが違えば、出てくる感想がみんな違う。それを、今度は観察するのだから、また、この観察の仕方が、人によって違うから、同じようなことを感じていても、この観察が違

うから、感想文がまた違う。そこが、面白い。だから、いろんな人がいることが楽しい。そう考えてみましょう。

○ 川元さんの作品を今から取り上げるよ。消しゴムを使わないということの良さが、川元さんの感想文からよく分かる。

○ それでは、書きますが、川元さんの題も、また素敵です。「自分と未来のかかわり」です。題にかかわっているところを、ちゃんと読み直して、書き直してある。前より直した方が、すごく素晴らしい。ということのみんなで考えてみます。

この本を読んで子孫がいることが分かる。ことが分かりました。(板書)

○ この本を読んで子孫がいることが分かりました。ちゃんと、話が分かる。

でも、川元さん、線を引いてね。(「引く」直してあるの。どう直したか。

題は、「自分と未来のかかわり」でした。だから、「分かりました」を題に合うように直している。どう直したか。これが、よく観察するということです。

ヒントね。(「こと」の「が」の横に「に」すると、「この本を読んで子孫がいること」：「となるね。続きを、何と直した。に感動しました。

○ 何、「に感動しました。」いいなあ。「いることに感動しました。」ああ、いいなあ。いぞ。そのほかに。

気付きました。

○ おおっ、素晴らしい。これ、気付きました。

たに直した方が、いいでしょう。ぜんぜん違ってくるでしょう。これを直したところが素晴らしい。

(気づきました と横に板書)

あなたはね。自分でそれができたのだから、たいしたもんだなあと思いました。

更に、ここにねえ、付け加えもあったのですよ。(記号を書く)これ、消しゴムで消さないから、勉強になるのですよ。こう出来た自分を誇りに思っている。消してしまつたら、この記念品に気が付かない。

時間がないから、少し書きます。後を考えてください。(自分のその と板書)後二

文字。一つは漢字。自分のその…、自分のその子孫がいることに気がつきました。となるが、何と入れる。仮名の方だけ書きます。(に と板書)漢字、何を入れる。

後。

○ 後、後に。(後 と板書)これ入れると、「自分と未来のかかわり」という題が生きてくるでしょう。上手いものだなあ、と思いました。

(以下 児童名は仮名)

二 点呼 (個評) (何人かの子の作品を紹介)

○ 他の人の話をしてあげます。

・ 大村雄介君 「体を作る物質」

分かったことを二つ書いてくれました。物質について分かったことです。

(理科的な内容が心に残ったと、伝わる感想文です)

大沢敏夫君 「すてきな命」

印象に残った文を書いてくれました。「すてきに思えませんか」の所です。

(題がいいね。印象に残った所

をテーマにして書いてくれた。

絞って書いた所がいいね。)

里山太智君 「命のつながり」

命のつながりを知った。なので、大切に頑張りたい、と決意を書いてくれました。

(なので、がよい。知ったので、後どうするかが書いてある。

そこがあなたのよい所)

町村公太君 「生命のつながり」

ぼく達が生きていくということは、他も大切ということだと書いてくれました。

(里山君は命、町村君は生命、の違いだけれども、それは、心の残り方が違うからです。それが、個性。他も大切になければと、心から思うようになった)

海部喜久君 「今生きている喜び」

ぼくは自由自在に動けます。友達・両親・祖父母に感謝している、と書いてくれました。

(題がいいね。感謝しているという気持ちが湧いてきたのは、この話をよく読んだということ。親が喜んでくれるね)

田中健太郎君 「すてきな命」

五段落に興味関心が、「歴史、生まれた」という言葉が好きで、生き物はすべてすてきだ、と書いてくれました。

(題は、大沢君と同じ。生き物はすべてすてきだと書いてある所に引かれた所がいい)

奥山美紗子さん 「つながり」

一生、外と、歴史とつながっていることがすてき、と書いています。

(題を書かなかったけれども、題を書くとしたら何と入れる。私が読んでみて、「つながり」という題でいいかなと思った。どう。そう、ありがたう。書くのを悩んで、途中まででしたがね。)

木下梅香さん 「今生きている」という大切さ

私や兄弟は、両親、おじいちゃん、おばあちゃんという生命の歴史があったから生まれた。だから、とても大切だ、と書いてくれました。

(生命の歴史を考えて、自分はどうなのかという書き方をしている。自分の心に残ったものを考えている所がいい)

三 優良文朗読 (作者による朗読)

○ 次の四人に読んでもらいます。

命のリレー

河本 春菜

私はこの説明文を読んで、さまざまながりを勉強しました。その中でも、生命の歴史のつながりは特に深く考えることができたので、それを中心に感想を書きたいと思います。

私は約三十八億年もつづく生命の歴史にくらべれば、何十年しかないちっぽけな命です。でも、この説明文を読んで、そのちっぽけな命が子孫を残すことで、生命の歴史がつづいてきたんだと改めて知ることができました。

私という存在は、この先、何万年何億年つづくかもしれない生命をつないでいる大切な命だから、他や自分を大切に、一日一日を大切にこれからも生きていきたいと考える事ができました。

友だち、家族、自分を大切にしてこれからも一生けん命、生きたいと思いました。

(素晴らしいね。よく考えて書いています。書き出しが工夫されているよね。)

こうなので、私はこのことについて書きます。内容もね。ちっぽけな自分だと思ふのだけでも、そうじゃないのだということ、改めて書いている所が、たいしたものだ)

他も大切

神田 瑞穂

中村桂子さんありがたうございます。私は、このお話で、あらためて自分自身、そして家族の大切さを知りました。みんなが同じ存在ではなく、それぞれ一つの個体として生きて

いること、かけがえのない一人ということ、よく感じました。

生まれ、成長し、老いて、死んでゆく生き物、人間の私達は一秒たりとも時間をむだにせず「一生を大切に」生きようと思いました。

よく考えると、つながっていない人はいない。この世界でくらししている人はみな大切な人がいるから生まれてきたんだと思いました。私が生まれてくるまでには、歴史があり祖先がいることは分かっていたはずなのに、とても気づかされたお話でした。

(素晴らしい。文が上手くまとまっている。中村さんありがたうで始まり、私に気づかせてくれてありがたうという結びになっている。構成も上手い。いいなあと思いました)

未来へのバトン

佐渡 美咲枝

私は、「生き物はつながりの中に」を読み、今、自分がこうして生きている事が不思議に思えました。とおいとおい昔のある一人の人から生まれた私の祖先から、この枝がのびるように、つながって生きている。そしてだんだん血が代わっていき、今私が、その祖先たちの代表として生きているように思えるからです。

しかし、人類が誕生したころの人から生まれた祖先から私たちは生まれてきているということになるから、今このクラスにいる友達と、私、少しだけ、同じ血がながれているんじゃないかなと思います。確かなことは分か

らないけど、生命の始まりの時代の人から生まれた私たちは、家族のようなものだと思います。そして、これからも私から命のリレーはつづき、私がかげがえのない存在になるんだなあと思いました。

なので、自分を大切にしたいと思いました。(物事を深く考えているということがよく分かる。この観察力が非常にあるなあということ。素晴らしいなあ、よく書けるなあ、六年生になるとこういう力も付くのだと思いました。題名がびったりしている。バトンを自分が落としてしまったら、私は祖先の代表なのだ、というその言葉遣いが素晴らしいなあと思いました)

つながりの中の私

大空 舞

チロと私達人間が同じようにあつかわれていて、生き物は全て、同じつながりの中にあり、とてもかけがえのない存在だということを知りました。

文章を読んで、今まで生きてきて当たり前だと思つたことが、とてもすばらしいことに思えてきました。知らず知らずのうちに、内と外とでの物質のやりとりをしていたことや、外から取り入れた物が自分の一部になること、そして、一つの個体として生きていくこと。

今まで思っていたこととちがいが、生き物として生きていくことは『すてき』だと思つようになりまし。これから、犬やねこなどの他に生き物とともに仲良く生きていきたいです。

(ああ、いいね。自分の心の成長をうまく観察して書いているなあ。こういう感想が書けるとすばらしい感想文。他の人の気持ちを打つ感想文になる。題名がいいね。題に「私」を入れたのがよい。自分のこととして読んでいるからです。内容も題にぴったり合っているなあと思いました)

四 聴写 (文の形式も読む。聞いて書く)

○ それでは、何も書いてない紙を出して下さい。

日付は算数で使う数字を、学校名と学年は漢字で書いて下さい。

一番最後の行の一番下のマスに、「写す」という漢字を書いて下さい。(写 と板書) したら、その上に自分の名前を書いて下さい。(橘田 篤男 と板書)

○ そのままで、出来たら鉛筆を置いて下さい。ト。(ロボット と板書)、間違えたら、線を引いて、下でも横でもいいから書き直して。次、ロボットと、生き物のちがいが。(と生き物のちがいが と板書を続ける)

○ 次の行、下から六マス目近江、一マス空けて、将仁。漢字分からない人、これ見せて。それでは、三行目、一マス空けて。ぼくは点。(ぼくは、 と板書) ロボットと生き物の違いは。点。(ロボットと生き物のちがいは、 と板書)

(以下、同様に聴写文を読みながら板書する)

ロボットと生き物のちがいが

近江 将仁

ぼくは、ロボットと生き物のちがいは、たくさんあることを知った。その中で、ぼくが気になったことは、二つある。

一つ目は、物資のやり取りです。イヌは、食事をしたり呼吸をしたりするけど、ロボットは、その代わりに電池で動く。電池の入れかえは、生き物と同じように見えるけど食事などはしないから、食べ物などは大事だと思った。

二つ目は、生命のつながりです。ロボットは、子どもを生んだりすることはできないけど、人やイヌは子どもを残していけることが気になった。

このことから、ぼくは、食べ物や空気やつながりは大事だと思った。

○ 大体ついて来られた。(遅れた子は板書を見ながら書いている) 今書いているところが、丸までいったら、止めて下さい。途中でもいいんだよ。そのままで、精一杯やることに大事なことだから。(しばらく待つ)

五 細評 (作品の長所を調べる)

○ それでは、近江君、黒板を読んで下さい。(元氣よく読む)

○ 四つの段落に分けて、ちゃんと書いてくれました。段落がしっかりできています。書

き出しがしっかりしているのはどこですか。

……。

○ ここでしよう。(ぼくが…二つある、という文を示して)書こうとしていることを、明確にしているところがよい。そして、二つのことをちゃんと書いている。

○ ここ(四段落)は、何。まとめ。

○ このことから、というまとめの言葉を使つて書いている。文の形式がしっかり書けている。

○ ここ(二段落)の中で、自分の感想はどこからか。大空さん。

○ 電池の入れかえは…大事だと思つた。文とすれば、ここからですが、この中に、事実も書かれている。

○ 思つたことを、一言でいうと何。大事。

○ 大事だ。食べ物などは大事だということ。では、ここ(三段落)。自分の感想は。

……。

○ 気になった、でしよう。

○ では、まとめの段落を見て、食べ物のこととは、どこに書いている。

○ ここ(二段落)にあるね。(食事)空気のことはどこに。

○ ここ(二段落)にあるね。(呼吸)で、つながりのことは、どこに書いている。

○ 生命のつながり。

○ そうだね。でも、ここ(四段落)にはつながりだけ書いてあるので、意味が分かりにくい。書き足した方がいいね。ここに何を足した方がいい。

○ 生命の。

○ 生命の、と入れた方がいい。(＜と生命の)を板書)

○ 近江君の文章は、他の人の文章とちよつと違うね。こういうのを何文というの。「知つた。思つた」というのは、何文というの。知らない。

○ 知らないの。これね、常体文というの。「ました」というのは、敬体文。いいね。

○ 近江君は、常体文で書いているのだけれど、常体じゃあないところがあるので。どれですか。

○ 「です」を何に直す。

○ 「だ」に直す。(ですに―横にだを板書)だ。

○ 近江君は、敬体でなく常体文で書いた方が、……: どういう感じを受ける。柔らかい感じ、それとも、言い切っている感じ。

○ 言い切っている感じ。

○ 言い切っている感じ。こういう文章を書くときには、意外とあっている書き方かもしれない。そういう書き方をしたセンスがいいなあと思いました。

○ お仕舞です。五時間よく頑張ってくれました。少し難しい話だから是非図書室でこれに関連した本を読んでみてください。そうすると、もっと面白い。

○ 昨日の新聞の下の方に、日本人のルーツの話が書いてある本の広告が出ていました。アフリカから動き始めて日本に来るまでのことです。

○ もう一つ、何年か前に、テレビを見てい

たら、今の研究で分かったことで、さつき、佐渡さんが書いていたように、日本人の元は、モンゴルの草原の中に住んでいた六人の女性だと突き止めた話でした。六人の女性から君たちの祖先は生まれました。そうすると、佐渡さんがいったように、みんなは、親戚かも分らない。そう考えると、血はつながっているかもしれない。

○ そんなことも、図書館で探すと見つけれられるかもしれない。

○ 終わります。姿勢を正してください。ご苦労様でした。

○ その用紙、両方出してください。班で誰か集めてください。(礼)

○ みんなで、御礼の挨拶をしましょう。気をつけ、礼。

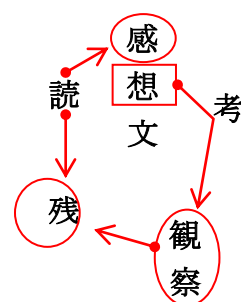
○ ありがとうございます。

○ こちらこそ、ありがとうございます。よい勉強になりました。

○ 「生き物はつながりの中に」という勉強は、三クラス目でした。前の二クラスは大失敗で、立っていないくらいのショックでしたが、みんなが一生懸命にやってくれたので、ああ、こうすればいいんだということが、分かってきました。いい勉強になりました。感想文もいい感想文を書いてくれたので嬉

しいです。今集めた感想文を読み直してから、また返します。

○ この前も、授業の感想を書いてもらいましたが、今回もお願いします。



この本を読んで、~~子孫が~~
自分のその後に
に気がつきました
いることが分かりました。

ロボットと生き物のちがいを

近江 将仁

ぼくは、ロボットと生き物のちがいは、たくさんあることを知った。その中で、ぼくが気になったことは、二つある。
一つ目は、物資のやり取りです。イヌは、食事をしたり呼吸をしたりするけど、ロボットは、その代わりに電池で動く。電池を入れかえは、生き物と同じように見えるけど食事などはしないから、食べ物などは大事だと思っただ。

二つ目は、生命のつながりです。ロボットは、子どもを生んだりすることはできないけど、人やイヌは子どもを残していけることが気になった。

このことから、ぼくは、食べ物や空気やつながりは大事だと思っただ。

二年ほど前に、六年生に復習として二時間ずつ、二クラスで授業したことがあった。一時間は、概観の指導で、もう一時間は、生命の歴史の所を中心詳しく読む指導だった。その時に、この教材をもう一度、最初からやってみたいと思った。今回その願いが叶って、三クラスとも、読みの指導三時間、感想文指導二時間の計五時間の授業が実現した。

最初のクラスは、理科的な要素を入れ過ぎてしまい、中途半端な授業になってしまった。次のクラスでは、前の教材文「感情」の概観指導を一時間入れた。それは、生命の歴史Ⅱ進化と考えると、理解が深まるだろうと考えたからだ。しかし、その概観は、詰めめが甘さが露呈して難しい扱いになってしまった。その余波と前のクラスの失敗を改善したつもりだった扱いが、生物学の知識を付け加える指導になってしまった。しかも、読みの指導時間が二時間という中で工夫も足りなかった。三クラス目は、方針を変えた。

それは、先達の「教材文と子どもの持っている生活経験や常識を手がかりにすること」が小学校の読みの指導だ、という教えを思い出したことであり、生命学者である筆者が書かなかったことは『書かないと判断』したのだから、その点の付加を必要としない授業を工夫すればよいのだと気付いたからである。

その結果がこの筆録である。授業の方向性が見えてきた。四苦八苦の十五時間であったが収穫は大だ。今後の再挑戦が楽しみである。